

授業科目 (科目ID)	教養Ⅱ  21e201	担当教員  (実務経験)	工藤 哲也  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 別紙1参照		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	30	時間数	60時間
授業目的	・教養Ⅰで学んだことをベースに、公務員試験の一般知能分野を効果的に解答するための問題演習を行う。基礎分野の復習から実践レベルの問題へと解答テクニックの幅を広げる。				
到達目標	・過去問ベースの問題を各自独力で解答を導き出すことができる。				
テキスト・ 参考図書等	・絶対合格シリーズ 各分野				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	定期試験70% 小テスト10% 提出物20%		
	レポート	%			
	小テスト	10%			
	提出物	20%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	様々な解答法を講義形式で展開していく。類題の解法は数多くは実施しない。各人が反復して問題を解答することによってはじめて自分の力となる。家庭での復習が実力定着のカギとなるので、適宜宿題を与えたり、確認テストを実施する。(単元の評価にも関与する)知能は文字通り知的能力が試される科目である。決して難問ではない。何事にも柔軟な発想であきらめずにチャレンジすること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	数的推理 (阿部)	教養Ⅰの復習		
	2	判断推理 (工藤)	うそつき①		
	3	数的推理 (阿部)	通過算①		
	4	判断推理 (工藤)	うそつき②		
	5	数的推理 (阿部)	通過算②		
	6	判断推理 (工藤)	順序関係①		
	7	数的推理 (阿部)	流水算①		
	8	判断推理 (工藤)	順序関係②		
	9	数的推理 (阿部)	流水算②		
	10	判断推理 (工藤)	順序関係③		
	11	数的推理 (阿部)	時計算		
	12	判断推理 (工藤)	位置・方位①		
	13	数的推理 (阿部)	ニュートン算①		
	14	判断推理 (工藤)	位置・方位①		
15	数的推理 (阿部)	ニュートン算②			

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	16	判断推理（工藤）	位置・方位②
	17	数的推理（阿部）	仕事算①
	18	判断推理（工藤）	位置・方位③
	19	数的推理（阿部）	仕事算②
	20	空間把握（工藤）	暗号①
	21	数的推理（阿部）	三角形と多角形①
	22	判断推理（工藤）	暗号②
	23	数的推理（輕部）	三角形と多角形②
	24	判断推理（工藤）	手順
	25	数的推理（阿部）	円①
	26	判断推理（工藤）	暦・カレンダー
	27	数的推理（阿部）	円②
	28	判断推理（工藤）	数量推理
	29	数的推理（阿部）	面積（三角形）
30	判断推理（工藤）	まとめ	



授業科目 (科目ID)	感染症と予防  21e202		担当教員  (実務経験)	阿部 綱一  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 救急救命士として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う 別紙1参照		
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	10	時間数	20時間
授業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染における知識を得る。</li> <li>・感染予防について理解し、行動できる基盤を作る。</li> </ul>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染に対する予防策、安全策について説明ができる。</li> <li>・感染症に対する処置を説明できる。</li> </ul>					
テキスト・参考図書等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改訂 第10版 救急救命士標準テキスト</li> <li>・消防職員のための消毒・滅菌・感染症対策マニュアル</li> </ul>					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	80%	定期試験80% 確認テスト20%			
	レポート	%				
	小テスト	20%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の留意事項	感染の種類、経路、予防策について学ぶ。救急隊活動の中でどのような注意、対策が必要かをしっかり押さえること。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	感染予防策と感染防御	スタンダードプリコーションとは。感染経路の種類と代表的な感染症。			
	2	救急活動での感染防御	手指衛生。手洗いの方法。N95、手袋の着脱について。			
	3	洗浄と消毒	清潔と不潔について。消毒液の種類。滅菌、消毒、洗浄について。			
	4	感染事故と事故後の対応	針刺事故、結核傷病者への対応、感染症法による主な感染症の分類。			
	5	感染症総論	感染とは何か。ワクチン。救急隊としての感染対策について。			
	6	特異感染症	敗血症、結核、インフルエンザ。			
	7	食中毒と輸入感染症	ノロウイルス、腸管出血性大腸菌、マラリア、細菌性赤痢、デング熱 等。			
	8	発疹性感染症、皮膚・軟部組織感染症、その他の感染症	麻疹、風疹、水痘、SSSS、蜂窩織炎、丹毒、破傷風 等。			
	9	性感染症	性交渉による感染症のリスクについて。			
	10	COVID-19	新型コロナウイルス関連。			
	11					
	12					
	13					
	14					
15						



2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

救急救命学科

授業科目 (科目ID)	看護学概論  21e203	担当教員  (実務経験)	佐藤 真紀子  看護師、助産師として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う 別紙1参照 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	10	時間数	20時間
授業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急医療を行うチームとして存在する看護(師)について理解を深める。</li> <li>看護の実践から救急救命士として参考にできる事柄について理解を深める。</li> <li>プレホスピタルとインホスピタルの連携について理解を深める。</li> </ul>				
到達目標	救急医療における看護と救急救命士との連携について自分の考えをまとめ、述べるができる。				
テキスト・参考図書等	<ul style="list-style-type: none"> <li>改訂 第10版 救急救命士標準テキスト</li> <li>配付資料 等</li> </ul>				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	レポート100%		
	レポート	100%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の留意事項	救急活動と関連の深い項目をとりあげ、その領域を専門とする外部講師による授業を予定している。授業後にその内容に関するレポート課題を提示し、評価とする。授業順番は講師により前後することがある。授業中の不明な点や疑問点に関しては積極的に質問し解決すること。授業最後にその内容からレポート課題を提示するため、居眠りをしないこと。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	看護とは？	看護学概論、看護の歴史、医療倫理		
	2	救急看護①	精神看護領域について		
	3	救急看護②	災害看護		
	4	救急看護③	ドクターヘリの活動と役割		
	5	救急看護④	救急救命士と看護師の関連性		
	6	救急看護⑤	緊急検査項目の解釈/動脈血ガスの解釈		
	7	コミュニケーション	観察とコミュニケーション		
	8	病院実習	看護師と救急救命士/トリアージ編		
	9	病院実習	医療チーム内での救急救命士の役割を理解する①		
	10	病院実習	医療チーム内での救急救命士の役割を理解する②		
	11				
	12				
	13				
	14				
15					

授業科目 (科目ID)	看護学概論  21e203	担当教員  (実務経験)	中村 創  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	2年・前期	担当教員	河瀬 享哉
授業形態	講義	(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
		担当教員  (実務経験)	佐々木 信子  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
		担当教員  (実務経験)	三上 育子  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
		担当教員  (実務経験)	福島 綾子  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>

授業科目 (科目ID)	生命倫理  21e204	担当教員  (実務経験)	麻生 尚志  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	8	時間数	16時間
授業目的	・近年、先端医療において、従来の生命観と価値観が対立するような事例が生じ、それらを反映して医療をめぐる倫理観にも新しい変化が生じてきた。対象の意思を尊重し、人権と自由の保護を基盤とした生命と倫理について理解する。				
到達目標	・「命」について深く学び、相手の気持ちに配慮した傷病者対応ができる。				
テキスト・参考図書等	・配付資料 等				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	定期試験50% 平常点(レポート提出他)30%		
	レポート	%			
	小テスト	30%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の留意事項	さまざま生命倫理の問題の中でも、今後、医療現場においてより深刻化することが予想される幾つかの問題に絞って授業を行う。実際に、「知識」をもつのではなく、「問題意識」をもつことが目標とされる。「知識」だけでは、実際に問題に直面したときに対処できない。受講者には自ら主体的に問題を問おうとする姿勢が求められる。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	生命倫理と医の倫理	生命倫理とは何か 人間の尊厳		
	2	インフォームドコンセント	人間の尊厳 インフォームドコンセント		
	3	傷病者の権利を護る立場から①	患者の自己決定権 善行の原則		
	4	傷病者の権利を護る立場から②	功利主義 愚行権 尊厳死		
	5	傷病者の権利を護る立場から③	安楽死にまつわる「滑り坂」論法		
	6	傷病者の権利を護る立場から④	生活の質と生命の質、優生思想		
	7	救急救命士の職業倫理	パーソン論 命の選別		
	8	まとめ	生命の神聖さと生命の質 生命倫理まとめ		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					

授業科目 (科目ID)	心肺停止Ⅱ  21e205		担当教員  (実務経験)	三上 剛人  救命救急センターにおいて看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う 別紙1参照		
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	・心肺停止患者の病態・処置を学び、理解する。					
到達目標	・蘇生のメカニズムを理解し、心肺停止傷病者に対して、適切な活動ができる。					
テキスト・参考図書等	・改訂 第10版 救急救命士標準テキスト					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	80%	定期試験80% 確認テスト20%			
	レポート	%				
	小テスト	20%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の留意事項	前回の授業の復習として確認試験を都度実施する。成績が悪い場合は、レポートを課する場合がある。不明点は、積極的に質問すること。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	総論	定義と概念、疫学、ウツタイン			
	2	心肺停止に至る病態と原因①	心肺停止時の病態、心肺蘇生の原理、心拍再開後の病態①			
	3	心肺停止に至る病態と原因②	心肺停止時の病態、心肺蘇生の原理、心拍再開後の病態②			
	4	心肺蘇生①	心肺停止の判断、心肺停止時の心電図変化①			
	5	心肺蘇生②	心肺停止時の心電図変化②、AED、蘇生に関わる因子			
	6	成人のCPR①	ガイドライン2020			
	7	成人のCPR②	成人・小児・新生児のBLS			
	8	特定行為①	静脈路確保と輸液			
	9	特定行為②	器具気道確保(上気道デバイス)			
	10	特定行為③	器具気道確保(気管挿管)			
	11	特定行為④	薬剤投与(アドレナリン)			
	12	特定行為⑤	低血糖の判断とブドウ糖投与			
	13	メディカルコントロール	具体的指示と包括的指示			
	14	病院前救護体制	1次・2次・3次病院の違いについて。年間搬送件数と重症度の割合			
15	まとめ	総合問題演習、解説				



授業科目 (科目ID)	ショック・循環不全  21e206		担当教員  (実務経験)	阿部 綱一  救急救命士として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	10	時間数 20時間
授業目的	・ショックの病態について理解し、対処する基盤を養う。(ショック時の輸液に対応する)				
到達目標	・ショックの病態、判断、処置について説明が十分にできる。				
テキスト・ 参考図書等	・改訂 第10版 救急救命士標準テキスト				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	定期試験80% 確認テスト20%		
	レポート	%			
	小テスト	20%			
	提出物	%			
その他	%				
履修上の 留意事項	毎回の授業の始めに確認試験を実施。定期試験の点数に加算する。しっかり復習をすること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	循環障害について①	虚血と梗塞、うっ血		
	2	循環障害について②	浮腫、出血、血液凝固		
	3	総論	ショックの定義、病態生理		
	4	ショックを理解する上での基礎知識	循環動態、血液の流れ		
	5	循環血液量減少性ショック	発症機序、循環動態の変化		
	6	心原性ショック	発症機序、循環動態の変化		
	7	心外閉塞・拘束性ショック	発症機序、循環動態の変化		
	8	血液分布異常性ショック	発症機序、循環動態の変化		
	9	ショックに陥る病態	ショックの判断と種類、病態の理解		
	10	ショック傷病者に対する特定行為	クラッシュ症候群、輸液		
	11				
	12				
	13				
	14				
15					

授業科目 (科目ID)	救急病態生理学Ⅱ  21e207		担当教員  (実務経験)	田中 則之  救急救命士として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	・症状による病態・重症度判定を知り、救急処置に役立てる。					
到達目標	・症状、所見から必要な救急処置、病態鑑別ができる。					
テキスト・参考図書等	・改訂 第10版 救急救命士標準テキスト ・配付資料 等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	70%	定期試験70% 確認試験30%			
	レポート	%				
	小テスト	30%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の留意事項	確認試験を途中に設けている。試験の成績が悪い場合は、レポートを課する場合がある。不明点は、積極的に質問すること。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	意識障害	意識障害の原因と代表的な疾患について			
	2	頭痛	頭痛の発症機序と分類 緊急度重症度の判断			
	3	痙攣	痙攣とてんかんの違い 痙攣の種類について			
	4	運動麻痺	運動麻痺とは 種類と機序について 運動麻痺の原因疾患			
	5	めまい	めまいとは 発生機序 分類と随伴症状			
	6	呼吸困難	呼吸困難の定義 呼吸困難の種類と原因疾患			
	7	喀血	喀血とは 喀血を伴う疾患の種類			
	8	一過性意識消失と失神	一過性脳虚血発作と失神の違い 原因と種類について			
	9	胸痛	胸痛の原因疾患と部位について 重症度緊急度			
	10	動悸	動悸とは 発生機序 原因疾患について			
	11	腹痛	腹痛の発生機序 腹痛の種類について 部位別の疾患			
	12	吐血・下血	吐血・下血とは 原因疾患について 喀血との鑑別			
	13	腰痛・背部痛	腰痛・背部痛の定義 緊急度重症度 部位別の疾患について			
	14	体温上昇	体温上昇の機序と疾患			
	15	まとめ	実践問題演習と解説			

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

救急救命学科

授業科目 (科目ID)	呼吸器・循環器系疾患  21e208	担当教員  (実務経験)	陰山 研  救命救急センターにおいて医師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	10	時間数	20時間
授業目的	・救急救命士に必要な呼吸器・循環器系疾患を理解する。				
到達目標	・授業で習った内容を活用し、病態鑑別、救急処置が行える。				
テキスト・参考図書等	・改訂 第10版 救急救命士標準テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	定期試験80% 確認テスト20%		
	レポート	%			
	小テスト	20%			
	提出物	%			
その他	%				
履修上の留意事項	スライドを用いての授業。配布資料はないため、各自ノートをとり授業をまとめるようにすること。不明点は、積極的に質問すること。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	循環器総論	心臓の生理と基礎		
	2	循環器疾患各論	心不全、高血圧		
	3	循環器疾患各論	虚血性心疾患 他		
	4	循環器疾患各論	不整脈 他		
	5	呼吸器疾患	総論		
	6	呼吸器疾患各論	気管支喘息、COPD、 他		
	7	呼吸器疾患各論	肺炎、肺がん、肺結核		
	8	症例	循環器、呼吸器疾患症例		
	9	症例	循環器、呼吸器疾患症例		
	10	まとめ	総合問題演習		
	11				
	12				
	13				
	14				
15					

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

救急救命学科

授業科目 (科目ID)	消化器・泌尿器系疾患  21e209	担当教員  (実務経験)	田口 大  救命救急センターにおいて医師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う 別紙1参照 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	10	時間数	20時間
授業目的	・救急救命士に必要な消化器系疾患を理解する。				
到達目標	・症状、所見から消化器疾患の病態鑑別ができ、説明ができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂 第10版 救急救命士標準テキスト ・配付資料 等				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80 %	定期試験80% 確認テスト20%		
	レポート	%			
	小テスト	20%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の留意事項	レポートを課す場合がある。不明点は、積極的に質問すること。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	疾患の理解①	腎臓の疾患、尿路の疾患		
	2	疾患の理解②	男性生殖器の疾患、女性生殖器の疾患		
	3	観察と判断①	泌尿器系疾患の主要症候		
	4	観察と判断②	消化器系疾患の主要症候		
	5	泌尿・生殖系解剖	疾患の理解に必要な基礎知識、観察と判断、緊急度判定		
	6	消化器系解剖	疾患の理解に必要な基礎知識、観察と判断、緊急度判定		
	7	主な疾患①	食道疾患		
	8	主な疾患②	胃・十二指腸疾患		
	9	主な疾患③	腸疾患		
	10	主な疾患④	肝臓・胆道・膵臓の疾患		
	11				
	12				
	13				
	14				
15					



2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

救急救命学科

授業科目 (科目ID)	神経系疾患  21e210		担当教員  (実務経験)	阿部 綱一  救急救命士として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う 別紙1参照	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	10	時間数 20時間
授業目的	・救急救命士に必要な脳・神経系疾患を理解する。				
到達目標	・神経系疾患傷病者への対応ができる。				
テキスト・ 参考図書等	・改訂 第10版 救急救命士標準テキスト ・配付資料 等				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	定期試験80% 確認テスト20%		
	レポート	%			
	小テスト	20%			
	提出物	%			
その他	%				
履修上の 留意事項	レポートを課す場合がある。不明点は、積極的に質問すること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	疾患理解に必要な基礎知識	神経系の構造と機能		
	2	疾患理解に必要な基礎知識	神経系疾患の主要症候		
	3	疾患理解に必要な基礎知識	緊急度・重症度の判断 JCS/GCSの理解		
	4	おもな疾患①	脳血管障害(くも膜下出血、脳出血、脳梗塞)		
	5	おもな疾患②	脳血管障害(TIA、脳動静脈奇形、もやもや病)		
	6	おもな疾患③	髄膜炎、脳炎、脳腫瘍、脳膿瘍		
	7	おもな疾患④	中枢疾患系の感染症		
	8	おもな疾患⑤	末梢神経疾患		
	9	おもな疾患⑥	その他の中枢神経疾患		
	10	まとめ	総合問題演習		
	11				
	12				
	13				
	14				
15					

